様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ２２ 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１０８９９

研究課題名（和文）地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割と評価指標

研究課題名（英文）Expanding Roles and Evaluation Indicators of Certified Nurse Specialists in the Community-based Integrated Care System.

研究代表者
中村　伸枝（Nakamura, Nobue）

千葉大学・大学院看護学研究院・教授

研究者番号：２０２８２４６０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、専門看護師の医療・社会情勢をふまえた活動の変化を明確にすること、専門看護師の評価指標、地域包括ケア時代に求められる役割、強化すべき大学院教育、継続教育について検討することを目的とした。2つの研究を実施した結果、専門看護師の役割として、包括的なアセスメント、エビデンス・情報に基づく決定、必要なケアや仕組みの創造と実践、リフレクションと評価が循環する活動と、活動の目標である、対象にケアが行き届く組織や施策が創られる、ケア対象のもつ力で生活が継続できる、質の高い看護ケアができる看護師の育成、ケア対象者・医療者がエンパワーされることが明らかとなり、評価指標や教育への示唆が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
専門看護師の活動や評価を明確に示すことは、診療報酬に結び付きやすい認定看護師や、保健師助産師看護師法で明記されている特定行為などより難しい。専門看護師は、大学院での専門看護師教育を基盤に自ら必要な知識や技術を学び、新たな活動を生み出しているが、その活動を明確にした研究は少ない。また、社会情勢の変化のなかで求められる専門看護師の役割や強化すべき大学院教育・継続教育を明確にすることは社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research project aimed to clarify the expanding roles of certified nurse specialists (CNSs) regarding medical and social conditions and examine the evaluation indicators, roles required in the community-based integrated care system, and education that should be strengthened for CNSs. We found that the roles of CNSs were indicated by activities including “comprehensive assessment”, “designing interventions based on evidence and expertise”, “creating and implementing necessary nursing care and systems”, and “reflecting and evaluating” and by goals including “providing advanced care for all patients (recommendations for healthcare policies, meaningful organizational change)”, “optimizing the patient’s self-care ability to continue their best possible life (patient outcome)”, “independently providing quality care (staff education)”, and “empowering the patient, family, and medical staff”. These results suggested evaluation indicators and education targets for CNSs.

研究分野：Nursing

キーワード：専門看護師　役割　評価

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

1994 年に日本看護協会が創設した専門看護師制度は「複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的」としている。1998 年に日本看護系大学協議会において専門看護師教育課程認定制度が発足し、2018 年 2 月現在、13 分野で 2、104 人の専門看護師が認定されている。専門看護師制度が開始されて 20 年以上が経過するなかで、医療・福祉を含む社会情勢は大きく変化している。少子高齢化や超高齢化社会となり、複数の健康問題をもつ対象が増加するとともに、家族の変化や地域による資源の偏り、複雑な倫理的課題の出現など健康問題の質も変化している。医療の高度化・複雑化を受けて、日本看護系大学協議会は、26 単位教育課程から実践力を強化した 38 単位教育課程に移行している。厚生労働省は、超高齢化社会に向けた地域包括ケアを担うチーム医療を推進するために特定行為研修制度を創設し、2015 年 10 月から研修制度を開始している。特定行為は、医師の指示書に基づく診療の補助に位置づくものの、医行為の一部を担う看護師の出現により、高度実践看護師のあり方が議論されるようになった。専門看護師は、個人、家族、コミュニティ、看護師やその他の専門職に対する、実践、教育、相談、調整、研究、倫理的調整を行ってきたが、専門看護師の活動やその評価に関する研究は不足している。地域包括ケア時代をむかえ、人々のもつ力や資源を生かし健康や生活を支える視点から専門看護師の役割や活動を明確にするとともに、その評価指標、今後強化すべき専門看護師教育について明確にする必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究課題は、専門看護師の活動や医療・社会情勢をふまえた活動の変化と役割を明確にし、専門看護師のラダーに沿っているか、また、専門看護師の評価指標、地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割、必要とされる大学院教育、修了後の継続教育について検討することを目的とした。

３．研究の方法

（１）研究１：専門看護師の医療・社会情勢をふまえた活動の変化とその評価

専門看護師の活動や役割に関する文献検討を行ったのち、10 年以上の活動経験をもつ専門看護師を対象に、専門看護師としての活動や医療・社会情勢をふまえた活動の変化と評価、大学院修了後の自己教育や受けたサポート等について面接調査を行った。分析は、質的帰納的に行い、専門看護師の初回更新となる認定後 5 年目までは専門分野によらない共通点が多かったため、認定後 5 年目までと 5 年目以降を分けて分析した。専門看護師認定後 5 年目までのデータは、活動のコードを、専門看護師の役割、支援対象、活動範囲の視点でカテゴリー化し、認定からの時期や活動内容により分類し、活動の広がりとして図示した。また、大学院修了後の自己教育について、その性質によりカテゴリー化した。認定後 5 年目以降のデータは、活動の変化がどのような理由でもたらされ、その変化が専門看護師と対象者に何をもたらしたのかに焦点をあてて分析した。データは、活動の変化のきっかけ、活動の結果・効果に分けて分析し、語られた時点の政策やガイドライン等をインタビューの補足とした。また、専門看護師が「今までの経験や社会の変化を通して認識している専門看護師の役割」について、何を目指しどのように活動（思考と実践）しているのかという視点で分析した。

（２）研究２：新型コロナウイルス感染症拡大のなかでの専門看護師の活動と困難への対処

専門看護師が新型コロナウイルス感染症という前例のない感染症拡大のなかで専門看護師としてどのように活動し、困難を感じ対処してきたか明確にすることを目的に、Web 調査及び面接調査を行い質的帰納的に分析した。

研究１および２の知見に基づき、専門看護師の活動が、「専門看護師ラダー」および「専門看護師育成ラダー」に沿っているか、専門看護師の評価指標、地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割、必要とされる大学院教育、修了後の継続教育について検討した。

４．研究成果

（１）研究１：専門看護師の医療・社会情勢をふまえた活動の変化とその評価

専門看護師として認定され 10 年以上活動している 7 専門看護分野の専門看護師 15 名の協力が得られた。専門看護分野は、がん看護 5 名、小児看護 4 名、慢性疾患看護 2 名、精神看護、老人看護、母性看護、急性・重症患者看護が各 1 名であった。専門看護師認定後の期間は平均 14.1 年±2.6 年（範囲 10～18 年）であり、現在の就業先は、病院 6 名、教育研究機関 6 名、訪問看護ステーション 2 名等であった。

専門看護師の認定後 5 年目までの活動として、「所属部署における直接ケアを中心とした活動」、

「施設内での横断的活動の確保と定着」、「施設内での専門看護師としての活動」、「施設外に向けた専門看護師としての活動と発信」が得られた。また、専門看護師の自己教育として、「高度実践に向けた事例分析とエビデンスの更新」、「事例検討会や学会活動等を通した高度実践の内省と研鑽」、「サブスペシャリティ強化に向けたスキルの獲得」、「国内外の研修を通した多職種との交流」が得られた。認定後 5 年目までの専門看護師の活動は、自己教育に支えられた対象者への質の高い看護実践が基盤となり、看護職の文化、組織文化のなかで受入れられていた。専門看護師の活動は、専門看護師の理論やエビデンスに基づいた意図的な働きかけ、質の高い看護の看護スタッフへの浸透、看護管理者のサポートによる職位や立場の変化、多職種への専門看護師の認知などが合わさり、拡大していた（図 1）。

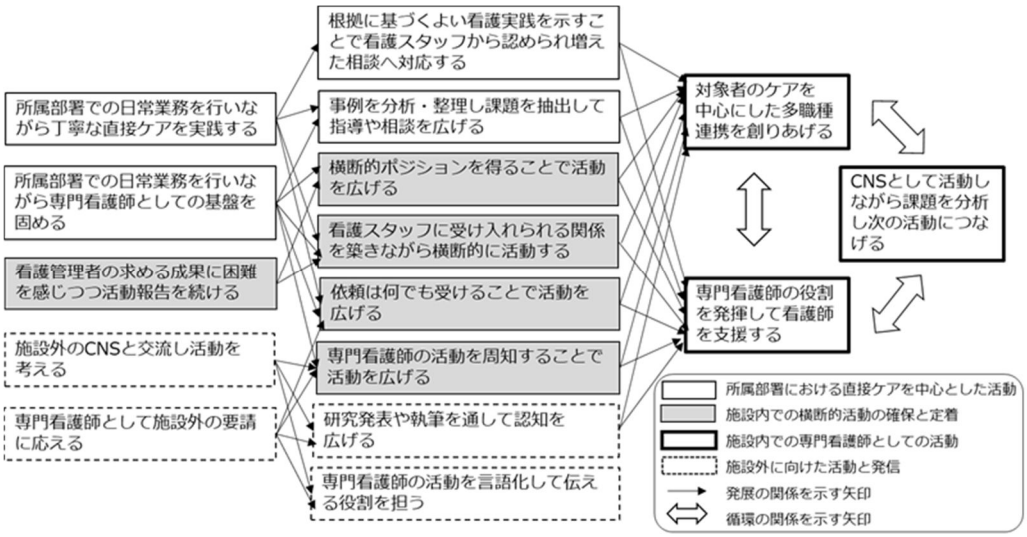

図１．専門看護師の認定から 5 年目までの活動の広がり [1)]

専門看護師の認定後 5 年目以降の活動として、専門看護師の活動が診療報酬の要件に含まれる場合には、看護管理者からの働きかけがあり、専門看護師が新たな活動の場や役割を得て活動を創造していく変化がみられた。また、専門看護師が社会のニーズや自組織での課題を捉えて、活動を創造していく変化もみられた。現在の所属は、より専門性が求められる部署、訪問看護ステーション、看護管理部署、看護系大学であり、専門看護師は、所属・職位に関わらず実践が重要であるとしていた。専門看護師の認識する役割は、「包括的なアセスメント」、「エビデンス・情報に基づく決定」、「必要なケアや仕組みの創造と実践」、「リフレクションと評価」が循環する活動と、活動の目標である「対象にケアが行き届く組織や施策が創られる（組織変革・政策提言）」、「ケア対象のもつ力で生活が継続できる（患者アウトカム）」、「質の高い看護ケアができる（スタッフの教育）」、「ケア対象者・医療者がエンパワーされる」が明らかとなった。

（２）研究２：新型コロナウイルス感染症拡大のなかでの専門看護師の活動と困難への対処

Web 調査では、9 専門看護分野の 46 名から回答があり、専門看護分野の内訳は、がん看護 20 名、小児看護 13 名、在宅看護 4 名、感染症看護と慢性疾患看護、精神看護が各 2 名、急性・重症患者看護と母性看護、家族看護が各 1 名であった。専門看護師認定後の平均年数は 8.7±5.3 年であり、所属施設は病院が 35 名、訪問看護ステーション 3 名、教育・研究機関 3 名等であった。

7 割以上の専門看護師が所属施設で対応を要したことは、「受診・入院患者による COVID-19 の持ち込みを防ぐために対応した」、「付添・面会者による COVID-19 の持ち込みを防ぐために対応した」、「COVID-19 感染症患者以外の診療やケアを継続するために対応した」、「所属施設のスタッフが COVID-19 に感染した」であった。専門看護師として活動した者は 28 名（60.9%）であった。専門看護師として活動した内容は、「新型コロナウイルス感染症患者への看護の創造と実装」、「感染症以外の患者に対する感染対策と看護の質担保」、「コロナ禍で生じた看護師の困難への支援」、「コロナ禍の患者・家族への支援」、「院内の感染対策や医療資源不足に備えた仕組みづくり」、「地域の新型コロナウイルス感染対策のリソースとなる」、「小児へのワクチン接種体制づくり」、「調査・研究」であり、活動の際に発揮した役割は調整と相談が多かった。

面接調査では、精神看護と小児看護の専門看護師 2 名の協力が得られた。面接データを質的帰納的に分析した結果、専門看護師のとらえた困難は、自治体や組織の求めに応じ看護体制が不安定になる、看護人員・物品・施設に制限があるなどの「組織としての課題」、緩和ケアなど通常の看護を行うことが難しいなどの「看護ケアの課題」、看護スタッフや事務職員のストレスが高いなど「スタッフのメンタルヘルスの課題」がみられた。専門看護師が捉えた強みは、よいケアへの志向や使命感のある看護スタッフの存在、専門職と協働できる体制、患者ケアの助言から介入できる専門看護師としての強みなどが挙げられた。専門看護師の困難への対処及び活動は、「活動の根拠となる情報収集と体制づくり」、「スタッフが話しやすいように振る舞う・場を作

る」、「スタッフの要望に応える」、「資源を活用して問題解決を図る」、「看護スタッフの思いや困難を他の専門職につなぎケア対象と看護スタッフの両者を支援する」等であった。

研究１及び２の結果から、専門看護師の役割は図２のように示された。

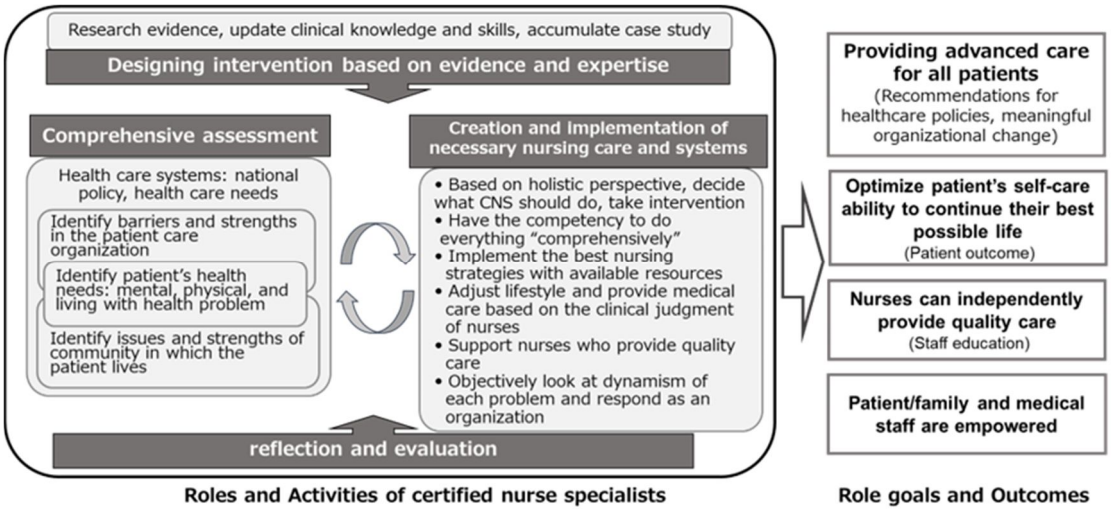

図２．専門看護師の役割

（３）専門看護師の評価指標、地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割、必要とされる大学院教育、修了後の継続教育についての検討

研究１および２で得られた専門看護師の活動の広がり・変化を「専門看護師ラダー」および「専門看護師育成ラダー」に照らして検討した。「専門看護師ラダー」は、日本専門看護師協議会臨床能力検討委員会により作成され、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の 6 つの役割毎に各レベルの到達目標が示されている [2)]。本研究で示された認定後の活動の広がり・変化は、「専門看護師ラダー」のレベルの進行に沿っていた。また、本研究の対象者の資格認定後の時期とラダーのレベルは、ラダーに示された資格認定後の時期とレベルの目安に沿っていた。看護管理者と専門看護師の共通理解をはかるために 2012 年に作成された「専門看護師育成ラダー」[3)]は、本研究で明らかとなった専門看護師の活動を発展させていくうえで、看護管理者と専門看護師が共通認識を図る上でも有用であると考えられた。

地域包括ケア時代に強化あるいは創造すべき専門看護師の役割として、災害レベルの新たな感染症のなかでの専門看護師の活動に関する研究２の結果から、自らの専門看護分野での活動を基盤に専門職と連携しながら、専門看護分野以外の活動や地域などの場においても幅を広げながら調整や相談などの役割を発揮していく必要性が示唆された。必要とされる専門看護師の大学院教育や継続教育においては、サブスペシャリティの強化だけでなく、専門領域の高度実践看護を基盤に、専門領域以外の複雑な問題を解決していくための包括的なアセスメント力や、エビデンス・情報の収集と分析能力、多職種連携、自己教育力などを強化していく必要があると考えられた。本プロジェクトでは、必ずしも慢性的な健康問題のある小児の看護をサブスペシャリティとしていない小児看護専門看護師が、教育や実践に活用可能な小冊子「1 型糖尿病の子どもと家族の生活 改訂第 3 版」を作成し、全国の小児看護専門看護師等に発送した。4 名の専門看護師から本冊子の活用希望があり、追加送付した。

専門看護師の評価指標は、専門看護師の活動の目標として明らかとなった、「対象にケアが行き届く組織や施策が創られる（組織変革・政策提言）」、「ケア対象のもつ力で生活が継続できる（患者アウトカム）」、「質の高い看護ケアができる（スタッフ教育）」、「ケア対象者・医療者がエンパワーされる」を軸に具体的な指標を作成していくことが有用と考えられた。

〈引用文献〉

① 中村伸枝，水野芳子，奥朋子，瀬尾智美，眞嶋朋子，仲井あや. 10 年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定から 5 年目までの活動の広がりと自己教育－文化の視点からの一考察－. 文化看護学会会誌，14 (1)，11-20, 2022.

② 日本専門看護師協議会臨床能力検討委員会，CNS（専門看護師）キャリアラダー. https://jpncns.org/doc/CNS_ladder_230228.pdf，2023.

③ 荒木暁子，中村伸枝，臼井いづみ，渡辺尚子，松田直正：専門看護師のクリニカルラダー（臨床実践能力段階別到達目標）および専門看護師育成ラダー（専門看護師の育成指標）試案の作成．千葉大学看護学部紀要，34，9-14，2012.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 中村伸枝，水野芳子，奥朋子，瀬尾智美，眞嶋朋子，仲井あや	４．巻 14(1)
２．論文標題 10年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定から5年目までの活動の広がりと自己教育－文化の視点からの一考察－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 文化看護学会会誌	６．最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中村伸枝，水野芳子，奥朋子，川西智美，眞嶋朋子，仲井あや	４．巻 10
２．論文標題 10年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定後5年目以降の活動の変化と認識する専門看護師の役割	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本CNS看護学会誌	６．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32164/jpncns.10.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 中村伸枝，水野芳子，奥朋子，瀬尾智美，眞嶋朋子，仲井あや
２．発表標題 10年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定から5年目までの活動の広がり
３．学会等名 千葉看護学会第27回学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 中村伸枝，水野芳子，奥朋子，瀬尾智美，眞嶋朋子，仲井あや
２．発表標題 10年以上の活動経験をもつ専門看護師の活動・役割の変化の様相
３．学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 水野芳子，中村伸枝，奥朋子，瀬尾智美，眞嶋朋子，仲井あや
２．発表標題 10年以上の活動経験をもつ専門看護師の自己教育
３．学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 尾高大輔，小泉恵子，中村伸枝
２．発表標題 テーマセッション　小児看護における高度実践看護師(APN)の役割と活動を共有しよう
３．学会等名 日本小児看護学会第31回学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 中村伸枝、奥朋子、水野芳子、瀬尾智美、眞嶋朋子、仲井あや
２．発表標題 10年以上の活動経験をもつ専門看護師の 医療・社会情勢をふまえた活動や役割の変化
３．学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 中村伸枝，水野芳子，奥朋子，川西智美，眞嶋朋子，仲井あや
２．発表標題 新型コロナウイルス感染症拡大のなかでの専門看護師の活動
３．学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 中村伸枝，水野芳子，奥朋子，川西智美，眞嶋朋子，仲井あや
２．発表標題 新型コロナ感染症拡大のなかで施設や職種が異なる専門職と協働する専門看護師の活動と文化的視点
３．学会等名 第15回文化看護学会学術集会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	水野　芳子 (Mizuno Yoshiko) (20730360)	東京情報大学・看護学部・准教授 (32515)	
研究分担者	仲井　あや (Nakai Aya) (30612197)	千葉大学・大学院看護学研究院・助教 (12501)	
研究分担者	眞嶋　朋子 (Majima Tomoko) (50241112)	千葉大学・大学院看護学研究院・教授 (12501)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	奥　朋子 (Oku Tomoko)	訪問看護ステーションフレンド・管理者・がん看護専門看護師	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	川西　智美 (Kawanishi Tomomi)	千葉大学医学部付属病院・看護部・精神看護専門看護師	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関